

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.9.5～10.5
クラス名(年齢)	たんぽぽ組(0歳児)
年間テーマ	水

1.活動テーマ

<テーマ>

運動会 『水の中で産まれたよ コロコロたまごなんのたまご?』

<テーマの設定理由(子どもの姿)>

ミルクや食事で身体に取り入れる水、温かいお湯や温度の違う身体に触れる水、雨や水たまりなど視覚で感じる水、0歳児の生活に身近にある『みず』を五感で感じて過ごす。

2.活動スケジュール

R6. 9. 2～9. 5 さわれる水、さわれない水

R6. 9. 9～9. 20 水の中、池の中には何があるかな?

R9. 24～10. 5 池の中の卵になってあそぼう!

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

画用紙 ボール紙 花紙 ビニールシート ビニール袋

鈴 スポンジ ミラーシート

4.探究活動の実践

<活動内容>

夏に水遊びを経験して色々な温度の水を触った子どもたち。窓越しの水だと触れなかったり、色々な形の水袋に入った水も触った。身近な雨の遊びから雨の辿り着いた先の『池』に焦点を当て、池の中の植物や生き物を探し楽しんだ。水草になった保育士とカエルの卵の子どもとふれあい遊びも取り入れた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
R6.9.4 さわれるかな? あれ?水があっちこっちにいくよ?なでなで… ガラス越しにはねる水の動きを手で追うHちゃん。 不思議そうに見ていたNちゃんも側に来て手を伸ばしてペチペチ窓をたたく。 R6.9.10 み一つけた ブルーシートや水袋の池の上を卵ちゃんになってこ～ろころ。ムニュムニュ、ガサガサ色々な音がするね。 両手でシートをこすったり頬をくっつける子どもたち。 Yくんは池のブルーシートの穴に気づいて「…」覗いたり手を入れてみたら石が出てきたよ!石を振ると音がする!T君も石を拾って打ち合わせて音を鳴らす。 R6.9.24 フニャフニャなんだろう? (花紙の)水草を見つけたよ。手でクシャッとして手の平を見つめたり、口に入れて感触を確かめたいRちゃん。 ポイッと投げたいのに水草が手について取れなくて一生懸命手を振るNちゃん。どうしよう!?	 

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

ガラス越しに水が動くのを笑いながら楽しく見ていたHちゃん。Nちゃんは不思議そうに見ていた。段々ガラスに近づくHちゃんに比べNちゃんは、しばらく動く水と、Hちゃんの様子を見続ける。Nちゃんがガラスに近づいた際に“Hちゃんがいるから大丈夫”と安心したのか、動く水への興味が増したのか…そのどちらもあるのだろうと感じた。色々なタイプの子がいる中で、興味の先への表現方法も一人か二人かで変わって来るんだなと感じる。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.9.13～10.15
クラス名(年齢)	すみれ組(1歳児)
年間テーマ	水

1.活動テーマ

<テーマ>

運動会 『ぺんぺん ペペペペン たのしいな』

<テーマの設定理由(子どもの姿)>

水ってどんな物？氷ってどんなもの？水や氷に親しんで生活している生きもののペンギン。ペンギンの動きの表現や生態を考えながらのストーリーの中で自由に身体を使って楽しむ。

2.活動スケジュール

R6.9.10～水場で生きる生き物 シアター～表現

R6.9.13～かくれんぼ遊び、氷のサーキット

R6.9.26～魚を捕って泳ぐ、アザラシとのやりとり

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

帽子、かくれんぼ冰山、サーキット(冰山渡り、冰山すべり台、冰山ジャンプポコポコ冰山)、カラーポリの海、魚、赤ちゃんペンギン、アザラシ

4.探究活動の実践

<活動内容>

シアターで親しんでいるペンギン、冰山のかくれんぼにすべり台など氷でのサーキットを楽しむが、生きるためには魚を捕りに海へ！撮った魚をお腹を空かせて待っていた赤ちゃんペンギンに食べさせてあげよう！すると怖いアザラシが…。でも大丈夫、アザラシさんの真似っこで仲良くなりました。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
「どこにかくれようかな～」 「ばあ」「みつかちゃった～」 「きゃ～～」	
氷のすべり台だ～ 「しゅ～」 「しゅ～」 エアーすべり台でも楽しいよ	
いそがしい、いそがしい。こんどはアザラシさんにならなくっちゃ！いち、に、いち、に！ アザラシ役の先生の真似っこ～、ミニアザラシ！	

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

絵本で見たペンギン、親しみやすいキャラクターであり、遊びが進む中でより心を寄せる。音と遊びを連動させ、その子なりのイメージを膨らませる。そして、ミニアザラシや、遊びの先取りなどアレンジして遊ぶ。水の中、氷の上で十分に身体を動かす遊び、赤ちゃんペンギンの小さな口に魚を入れる集中を伴う遊び、アザラシとのやりとりなど、発達に見合った遊びはより楽しむ姿となる。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.9.5～10.5
クラス名(年齢)	ちゅうりっぷ組(2歳児)
年間テーマ	水

1.活動テーマ

<テーマ>

運動会 『にげて！にげて！さかなくん！』

<テーマの設定理由(子どもの姿)>

海の中にはたくさんの生き物がいることを魚釣り等で知っていった子どもたち。生きていくには餌を食べないと生きていけない。でも食べられないよう逃げて隠れたりと生態系を伝えた。

2.活動スケジュール

9月5日 体操やピアノの音で魚表現遊びを楽しむ。

10月5日 運動会当日

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

段ボール、画用紙、フープ、ボール

4.探究活動の実践

<活動内容>

魚になって泳ごう！から色々な泳ぎ方を見せる子どもたち。生き活きと部屋の中をすごい速さで泳ぎ表現していた。海の中にある昆布やエビやカニで遊んだり、餌を集め楽しんだと…お腹を空かせたサメが！にげて隠れて、生きていくためにはどうしたらいいかを伝えた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
R6.9. 魚ってどんな動き？ ピアノを使い魚の表現遊びを楽しむ。色々な動きの魚を表現、たっくさん速く走ったり止まってみたり…海の中って楽しい！ R6.9. エビカニ魚じゃんけん じゃんけんを身体を使って楽しむ。エビは丸めてグーカニはカニのポーズでチョキ、魚は横に手を広げてパー、掛け声も覚えコーナー遊びの中でも「エビカニ魚、じゃんけんぽん！」と楽しむ声が聞こえる。 R6.9.サメの登場 大きい音と一緒にでてきたサメ。子どもたちもびっくり涙を流す子も…走って逃げて岩に隠れれば見つからない！一生懸命身体を丸めて隠れる。子どもたち同士でも「しー」と言い静かにする。 R6.9.ふれあい遊び 手を繋いで2人組になるところでは「一緒にやろ！」と誘い楽しむことができた。	  

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

魚の表現遊びから色々な魚の表現を楽しむ子どもたち。海の中には、魚だけでなくその魚を食べてしまうサメも！隠れて静かにと友達に教えたりと色々な方法で守ることを考えて行っていた。ふれあい遊びでは友達に「一緒にやろう」と誘い楽しむ姿が見られ、会話もたくさん広がっていた。言葉で言わなくても手を差し出し誘う子もいたり色々な方法で誘い楽しんでいた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.9.5～10.5
クラス名(年齢)	もも組(3歳児)
年間テーマ	水

1.活動テーマ

<テーマ>

運動会『なみのこ のこのこ どこへいく』

<テーマの設定理由(子どもの姿)>

テーマの水。水の源は海。どうして波は起きるのか。どうして水がたくさん
の海と少ない海があるのか。海にはどんな生き物がいるのか。音、動き
様々な感覚で海、波の不思議を探求する。

2.活動スケジュール

R6.9.5 なみのこの、冒険。海の中にはなにがある？

R6.9.6～9.13 海の中の生き物たちと遊ぼう

R6.9.17～10.5 波って何で起きるのかな？風を起こそう

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

段ボール、スズランテープ、画用紙、リボン等

4.探究活動の実践

<活動内容>

保育士の作った「なみのこの冒険」の紙芝居を見て、波には激しい波、
静かな波等色々な波があることを知り、波の子どもになり、身体で波を
表現した。身体をどう動かすか、海の生き物の動き、風の動きを、話し
合いながら波を表現した。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
R6.9.5 紙芝居「なみのこの冒険」を聞く なみのこ達！冒険に出発！「進行！」ピアノの音を 聞き、波になりきって、思い思いに自由に動く。 大きい波は、どうやったらいいかな？ 「ジャンプする！」「お友達と手を繋ぐ！」等 友達と手を繋いで、前後左右に動く子がいた。 もつともつと大きい波は？ 「皆で手を繋いで、ながーくなる！」 2グループに分かれ、どちらの波が大きいかなと 比べたり、そのまま、花いちもんめの遊びに繋がり、 波いちもんめだね、と言う子もいた。 その後、旗紙を描いた。 「これは、ぐるぐる波。」「これは、赤ちゃん波」等、 波の遊びをしたからか、心に残っていた波を描く 子が多かった。	  

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

「波」という、生き物では無いものをどう表現するか、難しいのでは無いかと思ったが、
子ども達が自由に動き、この動きは〇〇みたいだねと子どもらしい発想から表現に
広がりが見られた。自由にスズランテープ等を使用できるように、環境設定をすれば、
更に広がりを見せたかもしれない。みんなで力を合わせることで、一人よりも大きい力
になることを、この活動で感じられたのではないかな。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.8.28～10.5
クラス名(年齢)	さくら組(4歳児)
年間テーマ	水

1.活動テーマ

<テーマ>

運動会 『いきものがたり』

<テーマの設定理由(子どもの姿)>

今年のテーマの”水”に沿った遊びを考え、5月に親子遠足で水族館に行き、海の生き物を見たり日頃の遊びからリズム遊びを取り入れていたため、子どもたちからも声があったのでそのことについて探求する。

2.活動スケジュール

R6.9.10～9.13 海の生き物になってあそぼう・海を作ろう

R6.9.17～9.25 海の生き物の泳ぎ方を知り自由に表現してみよう

R6.9.26～10.4 海の”いきものがたり”を表現しよう

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ピアノ・段ボール・画用紙・のり・スズランテープ(腕輪)・お面・CD・

海の生き物の写真

4.探究活動の実践

<活動内容>

導入として絵本『スイミー』の読み聞かせをする。海の中の話をし、ピアノの音を聞き分けて子どもたち自身で動きを表現する。4種類の生き物になりきり、身体を使い表現する。怖い生き物から身を守る為には?「隠れる」「家を作る」とアイデアが出て、”いきものがたり”を一緒に創り上げた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
R6.8.28 海の生き物って何がいる? 絵本を読み聞かせると、子どもたちからは「くらげ!」「さわら!」「小さい魚!」と知っている魚を発言。 ピアノを聞き、どんな風に泳ぐか想像を膨らませ、自由に表現をする。	
R6.9.17 海の中ってみんな仲良し? 「大きい魚が小さい魚を食べちゃう!」「家に逃げる」と海の世界連鎖を知り、思い思いに話す。 「みんなの家を作ろう!」のアイデアから、構成に家作りが組み込まれ、自分たちで家のパーツの配置を「ここにドアをつけよう!」等決めて、協力して家作りを完成させ楽しむ姿がある。	
R6.9.27 いきものがたり 海の中には色々な生き物が共存している事を知り、なりたい役で身体全身を使って表現する。同じグループの友だちと声を掛け合い、時には助け合い次第に”いきものがたり”が完成していく。	

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

今年のテーマは”水”という事と、親子遠足(5月)で水族館で海の生き物を知り、子どもの興味関心があると感じてこの題材に決めた。リズム遊びが好きなクラスのため、音源をCDのみではなく、エレクトーンを使用し子どもたちの表現や動きを一緒に考え「こう泳いだらいいんじゃない?」「小さくならう!」等のアイデアが生まれた。協力して完成させる喜びや、大切さを知る活動となった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R6.9.5～10.5
クラス名(年齢)	ひまわり組(5歳児)
年間テーマ	水

1.活動テーマ

<テーマ>

運動会『めぐみのみず 滝になる』

<テーマの設定理由(子どもの姿)>

ひまわり旅行で発見した吐竜の滝。あの水は、どこから来て、どうやって勢いよく流れ出ていくのかを考えながら、集団だからこそできる表現を自分たちで工夫を重ねて創り上げていく。

2.活動スケジュール

R6.9.6 しずくになってあそぼう

R6.9.9～9.25 水の変化～雲から雨へ、雨から地下へ、湧き水へ

R6.9.26～10.5 滝になろう

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

段ボール、スズランテープ、大型積み木、絵の具、不織布、ポンポン、タンブリン 等

4.探究活動の実践

<活動内容>

森の水は、雲から降り注ぐ雨が降って、地下にたまって湧き水となり、やがて大きな滝になる過程を「身体で表現する」ことを目的にした。グループごとでの話し合いを重ね、身体で“みず”を表現するためにはどんな動きが必要か、アイデアを出しあって創った。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
R6.9.17 みずはどんなものになる？ 「雨」「雪」「こおりとか…」自然の中にある“みず”の形を思いつくままに発言。 「冷たいから固まってるんだよ」なるほど～！ 音に合わせて身体を止めてみる。確かに氷のよう。 「カッチーン！」「カチコチ！」だるまさんが転んだ。 「溶ける～」ドロドロに溶けていく様子。 ふにゃふにゃ～、手も足も脱力！ 「雪は？」「ひらひら」「きらきら」うーん、うまく形にならないね。 「雪の結晶ってあるんだよ」えっどんなの！？ 以前、雪グループになったときの写真を思い出すこどもたち。タンブリンを持って並んで手を出してみて… 「床に寝てみたら？」「ここから見るときれい！」 「すごい！雪だよ！」「かっこいい！」 すごいなあ、覚えていたんだね、結晶の形！	 

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

「雪」の表現を考えたとき、真っ先に雪が降ってくる様子を思い浮かべたあと、「雪の結晶」という新しい発想が登場したことで、身体表現により広がり生まれた。手を伸ばしたりしゃがんだり、いろいろやってみる中で一段深まったのが「床に寝る」。「雪になっている！」と結晶の形と比べながら発見している姿があった。タンブリンを使った様々な表現の可能性に気づき、そこに喜びが生まれる活動となった。